

群衆がさらに集まったところで、イエスは話し始められた。「今の時代は邪悪な時代である。しるしを欲しがるが、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられない。つまり、ヨナがニネベの人々に対してしるしとなったように、人の子も今の時代に対してしるしとなる。」（ルカ11：29～30）

話を聞きたいと群衆が集まったところで、主イエスは話し始められた。「今の時代は邪悪な時代である。しるしを欲しがるが、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられない。」神の恵みを見失った時代は、希望を失くし、目を見張るしるしのみを求める。心が荒廃している時は、人はあっと驚く奇跡を見たいと欲するのである。しかし主イエスは、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられないと言われる。ヨナのしるしとは下記の故事である。預言者ヨナは、イスラエルを滅ぼしたアッシリアの首都ニネベに行き、罪と悪が天に届いているので、滅びを預言せよと命じられる。憎い敵国の都に行くことなどできないと、船に乗って逃げ出すが、大きな嵐に遭遇し、海に放り出される。すると、大きな魚に飲み込まれ、三日三晩を過ごす。ヨナが神の言葉に従う心が変わった時、魚から吐き出された。彼はニネベに行き、大きな町を歩き続け、「40日後にニネベは滅びる」と叫んで、預言する。すると、ニネベでは、王は粗布をまとい、灰に座し、悔い改めた。そして、国民に悪と暴虐から離れよとの布告を出した。国民は悔い改め、悪の道から離れた。それを見た神はニネベに下す災いを思い直された。ヨナはもちろん架空の預言者である。主イエスは、ヨナの預言がニネベの人々の悔い改め、悪の道から離れるしるしになったように、今、人の子（主イエス）は時代に対して、悔い改めを説くしるしであると語られた。

また、「裁きの時には、南の女王が今の時代の者たちと共に復活し、彼らを罪に定めるであろう」と語られた。この言葉は、下記のような意味である。ソロモンは知恵深く、権勢を謳歌していることは世界にとどろいていた。南の国シェバの女王は、ソロモンの名声を聞き、難問をもって試そうとやって来た。ソロモンはシェバの問いに答えられないことは何一つなかった。また、ソロモンの栄耀栄華に感嘆し、彼の知恵にただ敬服した。シェバの時代の人々はソロモンの知恵を受け入れたのである。主イエスは、ソロモンに勝るものがあると言われた。主イエスの知恵は、人間の知恵ではなく、神の知恵であるから、ソロモンの知恵にはるかに勝る。主イエスは、終末の裁きの時が来たら、復活した時には、主イエスの知恵を受け入れない人々を罪に定めると言われたのである。

同じように、ヨナの説教を聞いて、ニネベの人々は悔い改めた。主イエスが復活した時には、主イエスの言葉を聞いても悔い改めない今の時代の者たちを罪に定める。今、ここに、ソロモンの知恵、ヨナの説教に勝るものがある。主イエスが語られる神の知恵を受け入れ、人を神の恵みの下に導く神の言葉に聞き入れと諭している。

この記述は、主イエスご自身の言葉ではないだろう。ヨナの預言を超え、ソロモンの知恵を凌駕する主イエスに聞き入り、受け入れなさいという著者ルカの宣教の言葉である。彼は、多くの人々に主イエスの福音を信じてもらいたいと、この記述を書いたのである。パウロは、ローマ書10章17節で、「それゆえ、信仰は聞くことから、聞くことはキリストの言葉によって起こるのです」と書いている。主イエスの言葉に聞き、現わされた業を見て、そこに、救いを約束する福音の啓示を受け止めるのである。